



発行
うむい合同会社

〒904-2164
沖縄市桃原2-16-37
電話:098-988-5598

おとなの寺小屋
うむいぬうふやー

〒904-2164
沖縄市桃原2-16-37
☎ 098-988-5598
FAX 098-988-5600



あしあと
利用者ものがたり。
久志光子さん編

自分の時間がほしかった

(学生時代編)



いちばんじゃーぬ蘭。

「こんにちはー、カニステルもってきたよー」「あれ？今日お休みでしたよね？」
「そうなんだけどさー。うふやーに差入れあげたいから歩いてきたんだよ」
今回は、とてもうふやー思いの久志光子さんのあしあとをたどっていきます。

光子さんは、昭和10年10月に本部町伊豆味で父：せいろうさん 母：ごせい
さんのもとで、伊野波家の次女として生まれました。

家は豚や牛やヤギを飼っていて、伊野波家では家畜で生計をたてていたよう
です。

「伊豆味は昔とても田舎で、山深い細い道を通ってようやくとなりの家に着くよ
うなところだったよ」「学校に行くときもその道を通って20分くらいかかった」
学校がおわり帰宅すると、家事の手伝い。家畜のエサやり。庭の草刈り。
学生の生活とは思えないぐらい家庭のことを優先して、働いていたんですね。

「父と母は、とても厳しい人だった」と懐かしそうに話す光子さん。

「帰りが遅いと棒を持って立っていた、そして机や床をゴンゴンとたたき、
ヒージャーあびとんどー！草刈いやちゃーすが！」と怒られたときもありました。

「夜中で暗くてもエサやりさせられていたよ」と大変だった時代を思い出して話してくれました。



若いころからオシャレ。

忙しかった学生生活もようやく、卒業。家庭の仕事ではなく就職することになりました。就職先は家族に
紹介してもらいました。「にしんマーケット」というとても大きな商店だったそうです。

就職先の夫婦 翁長えいほうさんは、とても優しい方。奥さんのよしこさ
んは、とても仕事に厳しい方でした。

「そこでのいろんな勉強をさせてもらって大きくなった」

よしこさんが厳しかったので、従業員は3ヶ月もてばいいほうだったそうで
す。

週1回の休みで、たくさん稼いでいただろうなあと思いましたが、給料は
全部家族にわたしていたそうです。

「私は給料見たことないよ。家族のために仕事していたよ」ととても苦労した
けど、それでも家族思いの光子さんに幸せが訪れます。続きは次号にて…



キャリアウーマンでした！

文：佐和田裕也

あんない
かんない

キ～ンコ～ンカ～ンコ～ン

おとなの寺小屋では、鐘がなり響き、日直当番さんの号令で授業が
始まります。「これから社会の授業を始めます」と日直当番の利用者
さんの元気な声。「はじめまーす！」

先生役はスタッフ。皆さんに問いかけ授業を進めていきます。
「これは何でしょう？これは何に使う道具ですか？」利用者さんが
次々と手をあげ、答えははじめます。

「これは豆をひくやつよ」「名前は何だったかね～」「豆腐をつ
くるときに使ったよ」と昔を思い出しながら答えてくれます。

普段、授業中は皆の聞き役になっている利用者さんも席を立ち、
話し始めました。

「これはですね、石臼です。私もこれを使って豆腐作りしましたよ」と、覚えていることを教えてくれま
した。どんどん、よみがえり授業の終わりの鐘がなっても話は止まりません。



昔のことは利用者さんが詳しい。



みなさん集中していますね。

ある日の「国語」(ことわざ)の授業では、あてはまる言葉をいれ
てください。との問いかけで
「馬の耳に？」 「空を飛ぶ…」 「聞こえない…7」
「人のうちさも？」 「100日…」 「49日…」
「さるも？」 「木から歩く…」と皆で大笑い!!
「キ～ンコ～ンカ～ンコ～ン」 おとなの寺小屋では今日も鐘が鳴りひ
びいています。

うむいでーびる

感謝祭は今年開催できるの？

去年、12月の「感謝祭」に参加された利用者、ご家族、ケアマネージャー、ボランティアの皆
様、感謝祭にお越しいただき、どうもありがとうございました。

残念ではありますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、去年の感謝祭のように大勢
の方たちを招待しての開催はできません。

ですが、今年もぜひ感謝の気持ちを伝えたいので今年は「無観客感謝祭!!」
1年のしめくりに、みなさんに会って感謝を伝える日。私たちは無観客での感謝祭を開催すること
にしました。

感謝祭の様子はDVDに収録して配りますので楽しみにしてください。

<https://watazinoumui.com> うむいのホームページアドレスです。

(わたしのうむい どっと混む) ※どっと混みますが、感染予防対策は万全です！